

埼玉県高等学校体育連盟  
ライフル射撃専門部  
委員長 松田 信義  
(栄北高等学校)

## ライフル射撃専門部のジュニア育成～小学生から高校生まで～

### 1. 専門部の現状

現在、ライフル射撃専門部は栄北高校、国際学院高校、西武学園文理高校の3校で構成され、常に80名前後の選手をかかえている。そして、毎年全国でも3本の指に入る成績を残すことができている。その卒業生には、日本代表の古野本真希（国際卒）や全日本優勝経験のある小泉茉優などがおり、日本のトップ選手を輩出することができている。このように、高校を中心とする育成には、一定の実績が得られている。

また、西武学園文理高校においては、同校の中学校に部を創設し、早くから中学生を育成している。そのため、高校3年までの一貫指導により、毎年のように優秀な選手を輩出している。そして、昨年には国際学院中学が開校し、国際学院の一貫指導もスタートしている。

### 2. ジュニアアスリート（中学生～高校生）による選手育成

ライフル専門部では、選手育成を3校が協力して行っている。その選手育成の柱に「ジュニアアスリート」を置いている。年間12回の練習日を設け、選手の基礎力の育成から試合形式の実践練習まで、その内容は多様である。ライフルの指導は、オリンピック出場経験のある国際学院高校や栄北高校のコーチに行ってもらい、ピストルは現在の国体監督（県警）に行ってもらっている。3名とも日本を代表するコーチであり、一流の指導を選手に還元できている。また、各部活の顧問も高校日本代表コーチなどを経験する立場におり、その指導力は10年前と比べて格段に向上している。このような指導体制のもとでジュニアアスリートを実施することにより、前述したような実績を残すことができている。

### 3. プラチナキッズ（小学生）を利用した選手の発掘

3年前からプラチナキッズのライフル射撃体験教室を実施している。栄北高校で2月・3月に各1回ずつ実施し、毎回25～30名の小学生に参加していただいている。ビームライフルとビームピストルを体験し、多くの参加者がその楽しさを実感している。そのため、8月の普及を目的とした日本ライフル射撃協会の小学生・中学生大会に多くの選手が参加している。

### 4. プラチナキッズからジュニアアスリートへの一貫教育体制の構築

体験教室を経験したプラチナキッズは、小学校を卒業後に各中学校やスクールなどで他の競技に取り組む。西武文理高校や国際学院高校でライフル射撃部に入部しない限り、射撃を行う生徒はほぼいないのが現状である。しかし、体形の変化による動的スポーツへの限界を感じた生徒や、静的スポーツへの適正や関心がある生徒に関しては、高校で射撃競技を選択して欲しいと考えている。そのため、できるのであれば、プラチナキッズから高校でのジュニアアスリートまでの空白の期間（中学生の3年間）も継続して指導をしたいと考え、ライフルスクールを開校した。現在、栄北高校において月2～3回程度開校し、プラチナキッズの卒業生が練習に励んでいる。実際に毎回参加している生徒は2名しかいないが、期日や時間に流動性を持たせることで自由に参加できる体制をとっている。したがって、今年に入って1回でも参加した生徒は10名以上に及んでいる。まだはじまったばかりの一貫選手育成であるが、小学生から継続指導体制を作り上げることで、専門部の実績はもちろんだが、古野本選手や小泉選手に続いてオリンピックを目指せる選手を多く輩出していきたい。

一貫育成体制の構図

小学生

プラチナキッズの体験教室による選手の発掘

中学生

ライフル射撃部のある中学校への入学  
西武学園文理中学  
国際学院中学

ライフルスクールへの参加  
栄北高校が担当

高校生

ライフル専門部の3校へ  
西武学園文理高校、栄北高校、国際学院高校

大学生

各大学射撃部での活動 または 個人シューター

